

2020年12月期 第1四半期 決算説明資料

2020年5月11日
サイバーコム株式会社
東証一部 <3852>

1. 決算概要	P 3
2. 営業利益増減分析	P 4
3. セグメント別業績	P 5
4. 貸借対照表	P 6
5. 参考情報		
(1) セグメント別売上高	P 7
(2) 顧客別売上構成比	P 8
(3) 業績予想	P 9
(4) 配当予想	P 10
(5) 会社概要	P 11

1. 決算概要

2020年12月期 第1四半期実績

(単位：百万円)

	前年同期 (19/01-19/03)	当期 第1四半期 (20/01-20/03)	増減／増減比	
売上高	3,338	3,483	144	+4.3%
営業利益	265	314	48	+18.4%
営業利益率	8.0%	9.0%	—	—
経常利益	266	321	54	+20.4%
経常利益率	8.0%	9.2%	—	—
四半期純利益	183	217	34	+18.7%
四半期純利益率	5.5%	6.2%	—	—
1株当たり 四半期純利益	22.83円	27.10円	4.26円	—
ROE (自己資本当期純利益率)	3.9%	4.3%	—	—

◇売上高は、主力のソフトウェア開発事業が堅調に推移、サービス事業が好調に推移し 34億83百万円（前年同期比 4.3%増）と増収になりました。

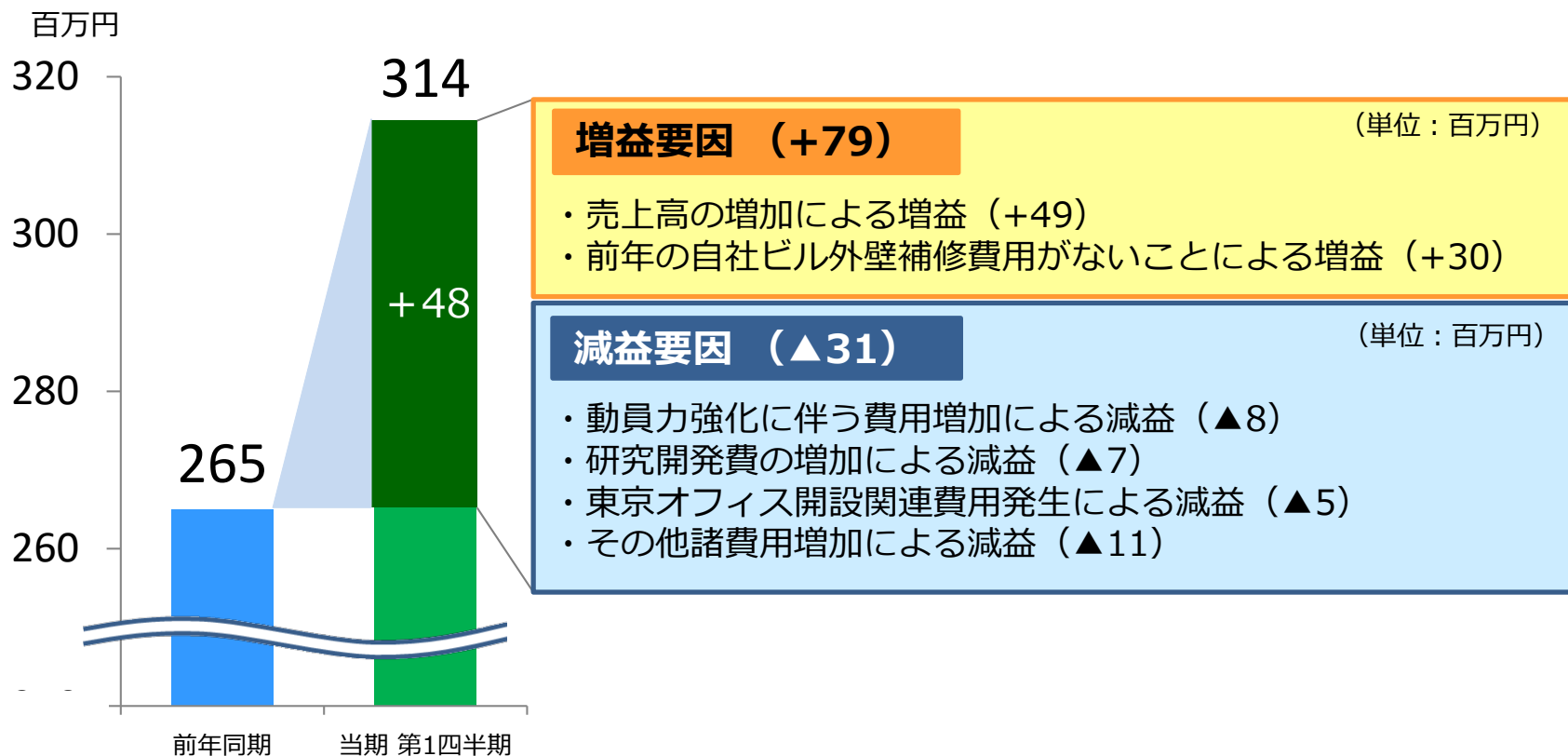
◇営業利益は、オフィス環境整備費用や動員力強化に伴う費用、研究開発費等の増加があったものの、増収効果に加え前年の自社ビル外壁補修およびクリーンルーム増設の費用発生がないこと等により 3億14百万円（前年同期比 18.4%増）と増益になりました。

◇四半期純利益は、2億17百万円（前年同期比 18.7%増）と増益になりました。

なお、新型コロナウイルス感染症対策費用に関して6百万円の特別損失計上をしております。

2. 営業利益増減分析

2020年12月期 第1四半期実績



◇営業利益の増加要因

動員力強化に伴う費用、研究開発費、東京オフィス開設関連費用等の増加があったものの、増収効果に加え前年の自社ビル外壁補修の費用発生がないことにより前年同期に比べ増益となりました。

3. セグメント別業績

2020年12月期 第1四半期セグメント別売上高・営業利益

(単位：百万円)

	売上高				セグメント利益または損失			
	実績	構成比	前同差	前同比	実績	利益率	前同差	前同比
ソフトウェア開発事業	2,762	79.3%	40	+1.5%	432	15.7%	10	+2.6%
通信ソフトウェア開発	461	13.2%	▲59	▲11.5%	73	15.9%	3	+4.3%
制御ソフトウェア開発	792	22.7%	▲51	▲6.1%	118	15.0%	0	+0.3%
業務ソフトウェア開発	1,508	43.3%	151	+11.2%	240	16.0%	7	+3.3%
サービス事業	707	20.3%	105	+17.5%	106	15.0%	24	+30.4%
ファシリティ事業	13	0.4%	▲1	▲10.0%	4	33.2%	7	-
本社調整 (※)	-	-	-	-	▲228	-	5	-
合計	3,483	100.0%	144	+4.3%	314	9.0%	48	+18.4%

※「セグメント利益または損失」の本社調整は、各セグメントに帰属しない全社費用であり、主に販売費及び一般管理費であります。

- ◇通信ソフトウェア開発は、通信機器開発案件等の減少となり、売上高は前年同期比11.5%減、セグメント利益は前年同期比4.3%増と**減収・増益**になりました。
- ◇制御ソフトウェア開発は、機械制御系システムや制御用アプリ等の開発案件が減少となり、売上高は前年同期比6.1%減となりましたが、セグメント利益は前年同期比0.3%増と**減収・増益**になりました。
- ◇業務ソフトウェア開発は、生命保険会社向け業務システムの大型案件継続に加え、企業向け業務システム、医療関連システム等の開発案件が好調に推移し、売上高は前年同期比11.2%増、セグメント利益は前年同期比3.3%増と**増収・増益**になりました。
- ◇サービス事業は、SIサービスにおいて社会インフラ及び金融系を中心とした仮想化やクラウドへの移行案件、サイバーセキュリティ対策案件、ネットワーク構築案件等の増加により好調に推移し、第5世代移動通信（5G）の基地局検証案件も堅調に推移しました。また、自社プロダクトである「Cyber Smart」シリーズ製品は、IP-PBX案件、クラウドサービスや年間保守の増加により堅調に推移しました。

4. 貸借対照表

貸借対照表のポイント（前期末比較）

（単位：百万円）

	前期末 2019/12	第1四半期末 2020/03	前期末差
流動資産	5,611	5,312	▲299
現金及び預金	829	1,012	182
受取手形及び売掛金	3,339	3,187	▲151
商品	0	1	1
仕掛品	49	75	25
短期貸付金	1,297	947	▲349 ①
その他	95	88	▲7
固定資産	3,566	3,451	▲115
有形固定資産	2,544	2,530	▲14
無形固定資産	56	50	▲6
その他	965	870	▲94
資産合計	9,178	8,763	▲415
流動負債	2,198	1,648	▲550
買掛金	488	516	28
未払費用	432	284	▲147
未払法人税等	145	19	▲126 ②
賞与引当金	636	308	▲328 ③
役員賞与引当金	32	6	▲26
その他	462	513	50
固定負債	1,908	1,962	54
退職給付引当金	1,876	1,934	57
役員退職慰労引当金	31	27	▲3
負債合計	4,106	3,610	▲496
純資産合計	5,071	5,152	81
負債純資産合計	9,178	8,763	▲415

主な増減要因

- ①CMS貸付金の減少
- ②2019年度 法人税等確定納付による減少
法人税等 ▲63百万円
県民・市民税 ▲82百万円
- ③2020年度 春季賞与支給による減少

※ CMSとはキャッシュ・マネジメント・システムの略称であり、当社では富士ソフト株式会社に余剰資金の貸付を行っております。

◇ご参考

	2019年12月末	2020年3月末
1株当たり純資産	632.31円	642.42円
自己資本比率	55.3%	58.8%

5. 参考情報 (セグメント別売上高)

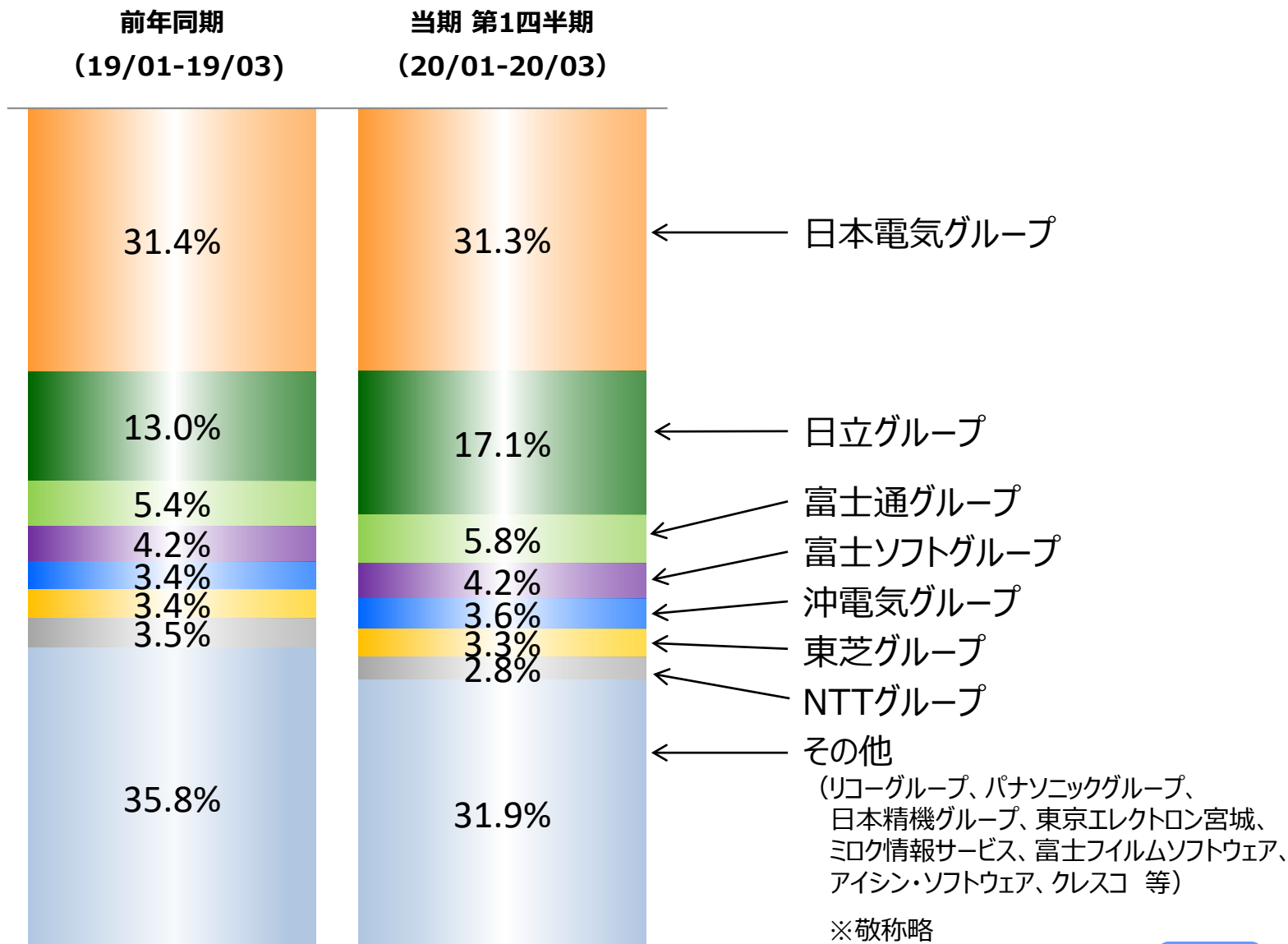
セグメント別売上高

(単位：百万円)

	2019年12月期			2020年12月期			
	第1四半期 (2019年1月～3月)			第1四半期 (2020年1月～3月)			
	金額	構成比	前同比	金額	構成比	前同差	前同比
ソフトウェア開発事業	2,722	81.5%	114.3%	2,762	79.3%	40	101.5%
通信ソフトウェア開発	521	15.6%	112.7%	461	13.2%	▲59	88.5%
通信基盤	376	11.3%	102.2%	267	7.7%	▲109	71.0%
その他通信	144	4.3%	153.9%	194	5.6%	49	133.9%
制御ソフトウェア開発	843	25.3%	105.3%	792	22.7%	▲51	93.9%
車載	474	14.2%	102.0%	482	13.9%	8	101.8%
その他制御	369	11.1%	109.8%	309	8.9%	▲59	83.8%
業務ソフトウェア開発	1,357	40.6%	121.5%	1,508	43.3%	151	111.2%
金融	472	14.1%	140.4%	485	13.9%	12	102.7%
情報通信	167	5.0%	66.0%	242	7.0%	75	144.9%
公共	222	6.7%	204.8%	204	5.9%	▲17	92.1%
製造	76	2.3%	93.9%	192	5.5%	115	251.3%
医療	126	3.8%	136.1%	139	4.0%	12	110.0%
エネルギー	109	3.3%	110.2%	99	2.9%	▲10	90.9%
その他業務	129	3.9%	99.0%	143	4.1%	▲27	84.0%
サービス事業	602	18.0%	112.2%	707	20.3%	105	117.5%
ファシリティ事業	14	0.4%	95.8%	13	0.4%	▲1	90.0%
合計	3,338	100.0%	113.9%	3,483	100.0%	144	104.3%

5. 参考情報（顧客別売上構成比）

顧客別売上構成比（前年同期比較）



5. 参考情報（業績予想）

2020年12月期 業績予想

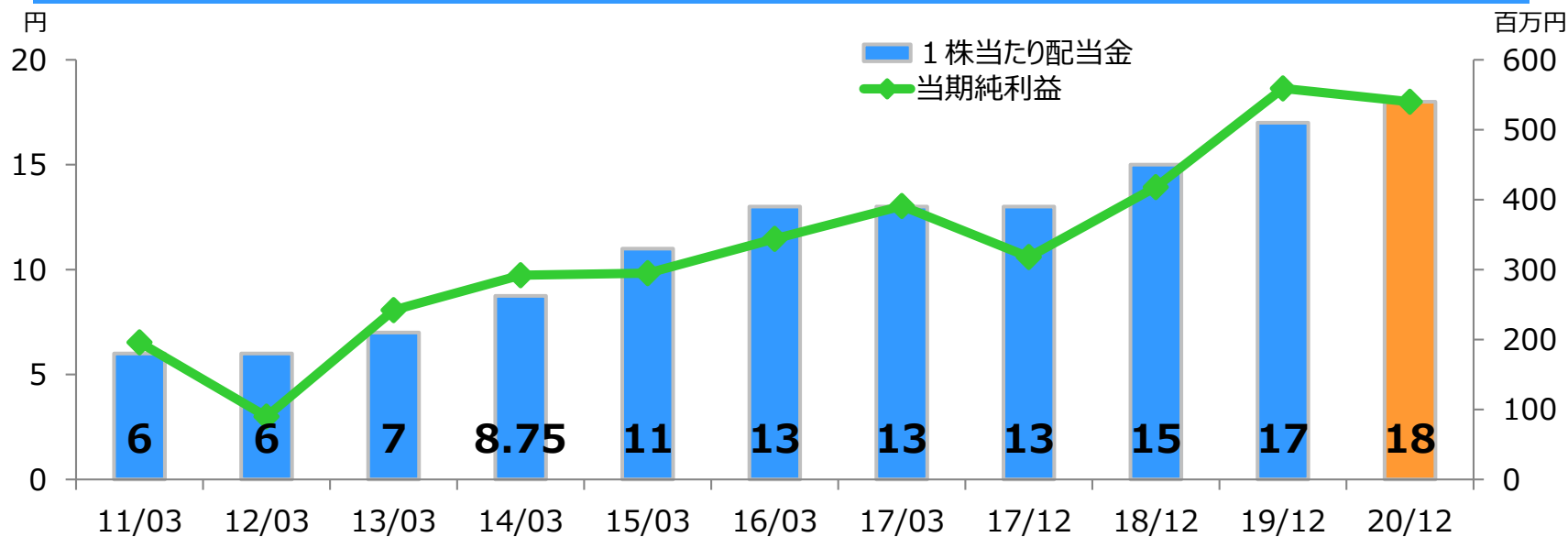
(単位：百万円)

	前期実績 (19/01-19/12)	業績予想 (20/01-20/12)	増減／増減比	
売上高	13,967	15,000	1,032	+7.4%
営業利益	746	800	53	+7.2%
営業利益率	5.3%	5.3%	—	—
経常利益	751	800	48	+6.5%
経常利益率	5.4%	5.3%	—	—
当期純利益	559	540	▲19	▲3.5%
当期純利益率	4.0%	3.6%	—	—
1株当たり 当期純利益	69.75円	67.32円	▲2.43円	—

通期の業績予想につきましては、2020年2月12日発表のとおりで変更ありません。
なお、当期純利益は、前期において税制優遇制度の適用をしていたため、2020年12月期は前期比3.5%減を見込んでおります。

5. 参考情報（配当予想）

配当金（年間）：1株につき18円
（配当金総額：144百万円 配当性向26.7%）



※15/03期の配当金：普通配当 9.5円 + 東証二部上場記念配当1.5円

※16/03期の配当金：普通配当11.5円 + 東証一部指定記念配当1.5円

※17/12期の配当金は決算期変更により2017年4月から12月の9ヶ月間を対象期間としております。

当社の利益配分は、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、『安定した配当』を継続して実施していくことを基本方針としております。

内部留保資金につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応するための事業拡大、人材育成やオフィス環境整備等の戦略的投資、さらには、新製品及び新サービス創出のための研究開発投資やM & A等に活用し、経営基盤の強化を図ってまいりたいと考えております。

上記方針に基づき、次期の利益配当につきましては1株当たり18円を予定しております。

5. 参考情報（会社概要）

会社プロフィール

名称：	サイバーコム株式会社 Cyber Com CO.,Ltd.
所在地：	本店 宮城県仙台市青葉区一番町2-7-17 朝日生命仙台一番町ビル 横浜本社 神奈川県横浜市中区本町4-34
設立：	1978年12月4日
代表者：	代表取締役社長 渡辺 剛喜
資本金：	3億99百万円
社員数：	1,144名（2020年4月現在）
事業内容：	ソフトウェア開発事業、サービス事業、ファシリティ事業

2020年12月期の主なニュース

日付	内容
2020/04/10	「緊急事態宣言」発令を踏まえた当社の対応方針について」を公表
2020/02/27	「東京オフィスの開設および我孫子オフィス移転に関するお知らせ」を公表
2020/02/27	「新型コロナウイルスの感染拡大に伴う対策について」を公表
2020/02/12	2019年12月期決算発表
2020/01/01	組織体制を変更し管理本部、システム&ソリューション事業本部、インテグレーション&プロダクト事業本部の3本部制に再編

サイバーコムテクノロジーで社会に貢献する

Cyber Com
サイバーコム株式会社

当資料の利用に関して

当資料は、投資家の投資の参考となる情報提供を目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。また、業績予想に関する記述は、当社が当資料発表日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。